

平成28年度 宮崎県立佐土原高等学校 自己評価書

4 段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営の基本的な考え方				総合自己評価	総合学校関係者評価
情報技術をベースとした専門高校として、「人ありて技術」の教育理念のもと、豊かな心、確かな学力・技術力を向上させ、将来を担うスペシャリストとなる人材を育成する。				3	3.8
重点目標	達成手段	○成果と●課題	自己評価	学校関係者評価	学校関係者コメント
1 自主・自立心の育成	①基本的な生活習慣を身に付けさせるため、常時指導を徹底する。	○職員による朝の立番指導、保護者や生徒会・部活動・クラス別の生徒による挨拶運動を実施し、遅刻は殆ど見られない。また、服装の乱れや生活態度で注意を受ける生徒も少ない。●校内では挨拶やだしなみについて高評価だが、校外での評価は不明。また、挨拶にも少し元気がほしい。	3	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的に挨拶してくれる。生徒は品行方正で、身だしなみや態度も高く評価できる。 ・制服の乱れた着用をする生徒を見かけない。一方で通学時の挨拶が少なくなってきた。 ・「人ありて技術」の教育理念が、学校全体で実践されていると感じます。 ・自転車・徒歩通学ともに整然としているが、たまに自転車の2台並走が見られる。坂道を猛スピードで下る生徒が年度当初見られたが、最近は見かけなくなった。
	②人権教育や安全教育を充実させる。	○合格者登校日に保護者と新入生に対し、警察による「携帯・スマホ」に関する注意喚起のための講話を実施し、入学直後の校内研修の際には、いじめ等の人権学習や「思春期の男女交際」をテーマにした講演を行い、互いに認め尊敬し合う人間関係の構築について学ぶ場を設けている。その効果と思われるが、悪意のある陰湿ないじめや暴力行為等は殆ど見られない。●全学年に対して、外部講師による携帯電話マナーの研修を実施しているが、ツイッターやフェイスブックを元にしての人間関係のトラブルは毎年発生しており、なかなか無くならない。●工業基礎の授業では危険防止教室を開催するなど、安全教育の啓発に努めている。また、登校時や下校時の交通立番指導を毎学期実施したり、警察署と連携した交通安全や薬物乱用防止教室も年1回実施している。しかし、交通事故や生徒の突拍子な行為による重大事故が発生しており、危機意識を高める必要がある。	3		<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓が行き届き、清潔感のある学習環境が実現できている。 ・校内がよく整理整頓されている。
	③落ち着いた学習できる環境づくりに努める。	○日々の清掃活動を通して、きれいで落ち着きのある学習環境づくりに努めており、ゴミ分別の取組も定着し、学習環境が整っている。また、職員が自主的に芝刈りを行ったり、生徒会役員を中心に「ゴミの持ち帰り運動」を行うなど、師弟同業で校内美化活動を進めている。	4		<ul style="list-style-type: none"> ・全体として明るく闊達、自主性を重んじる校風が感じられ、好感が持てる。 ・運動部、文化部ともに活気がある。 ・生徒会を中心に、生徒の手で運動会等の行事が運営されていて、自主性や活発さが感じられた。
	④主体性・協調性等を育てるため、生徒会活動や部活動を推進する。	○電子機械技術部がロボット全国大会、マイコンカー部が九州大会・全国大会に出場。また、ウェイトリフティング部や男子テニス部、バドミントン部等の活躍も著しい。運動部・文化部・生産部ともに活発に活動している。文化祭や体育祭だけではなく、課題研究発表会などの学校行事も生徒会が中心となって運営しており、生徒の自主性やリーダー性の育成に繋がっている。	3		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒全体に高い学習意欲が感じられる。 ・基礎学力及び専門性の向上に、教職員生徒共に真摯に取り組んおり、それが就職や進学に結果として表れている。 ・就職、進学などの進路指導が充実している。(九大などの進学など結果が出ている。) ・産業デザイン科はもとより、各学科が県下でもトップレベルにあり、同時に進学のための基礎学力の向上にも力を入れており評価できる。 ・高い第一志望合格率だと思います。学校としてのフォロワーがしっかりと行われている成果と感じました。 ・グローバル人材の育成を目指して、異文化交流等のプログラムも将来的には検討されていては如何でしょうか。
2 学力の向上と専門教育の推進	①基礎基本を確実に習得させ、自ら学ぶ態度と宅習の習慣化を図る。(自学習)	○落ち着きがあり熱心な授業が行われている。自習についても学習委員を中心に取り組みができている。●自立学習調査(宅習時間等の調査)で、日々の学習に関する意識付けや定着を図っているが、クラス(学科)で取組の差が見られる。学科や教科ごとに工夫して学力を高める必要がある。	3	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・実践させ体感させる学習が功を奏している ・積極的な資格取得を支援しており効果が出ている。
	②生徒の能力・適性を伸ばし、希望する進路を実現させるための指導を計画的・継続的に行う。	○個々の生徒の進路希望が多様化している中で、進路実現のための教育課程説明会を学年毎に開催し、3年生では進学・就職ともに面接指導を徹底して行っている。今年度は進学希望者数自体が少ない学年であったが、九州大学への合格者も出ており、個々の適性や適性を伸ばす工夫が行われている。また、進学希望者に対する課外を1年次(11月)から計画的・継続的に行うことで、進学希望者への学力保証が実を結んでいる。就職希望者も景気回復の影響もあり、12月までに、ほぼ全員が内定を決めている。2月末現在で、国立大16名(昨年22名)、公務員17名(昨年23名)となっている。(残り、就職1名・進学5名が未定)●進学希望者数が減少傾向にあり、今後気がかりな点である。また、本校の10年後・20年後を見据え、さらなる発展を目指し、人材育成の可能性の幅を広げたいと考え、SSH認定を目指しているところである。	4		<ul style="list-style-type: none"> ・多様な学習プログラムに工夫が凝らえる。SSHへの取組など職員研修が実践されている。 ・2年次からの就職コース、進学コースの選択コース制が確立され成果が出ている。 ・入学試験の志願状況も良好であるので、今後も生徒の確保に頑張ってください。
	③資格取得やものづくりを積極的に取り組ませ、専門性を高めさせる。	○工業部の生徒を中心に、ロボットやマイコンカー・エコカーなどのものづくりに積極的に取り組んでいる。各学科毎に特徴のある資格取得推進に取り組んでいる。●1年生全員受験のITパスポート試験については、受験自体に課題が残っている。次年度以降変更予定	3		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の専門家と気軽に相談・連携しやすい仕組みを作るなど、引き続き適切な対応を期待する。 ・先生方も技術の進歩が早いので、指導方法が難しいと思いますが、佐土原高校から世界へ技術力ある人材を発信していきましょう。地域の一人として応援していきます。 ・SSHと新教育課程の関係は大大夫なのか。
3 組織的な指導体制の構築	①各教科・学科の研修会を充実させ、指導方法の工夫・改善や指導実践力の向上に努める。	○指導方法の工夫・改善を図るための研究授業旬間を1・2学期に実施し、教科・学科単位で工夫・改善の研修に活用した。また、専門教科では、「授業力向上研修」を行っており、アクティブラーニング等の研修も取り入れている。普通教科職員も参加しており、理数教科と専門教科との融合による授業研究が期待される。●本校はICT機器に恵まれているので、有効利用のための研修が先進的に取り組まれるべきである。	3	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・「佐高だより」の発行は、学校活動の発信に効果的で活動の取り組み成果がよく分かる。 ・「佐高だより」は読みやすく、情報発信が積極的になされている。 ・銀嶺際や体験入学プレミアムワークショップ等を開講し、情報発信に努力している。
	②多様な生徒指導に適切に対応し指導できる体制を整える。	●課題を抱える生徒への対応について、カウンセリング委員会を定期的に開催し、該当生徒の情報共有を職員間で図っているが、それぞれの要因に応じて粘り強く取り組む必要があり、医療機関との連携が欠かせない場合が多い。次年度からは、生徒指導部の相談係から相談部へと独立した形で立ち上げて対応を図る。	3		<ul style="list-style-type: none"> ・テクノフェアやインターンシップに積極的で、成果発表は地域や企業等に対して大きなアピールとなった。 ・広瀬北小学校区地域づくり協議会行事への参加や、IPの活性化に生徒が協力してくれている。 ・今後とも、宮崎大学、工業技術センターとの連携を積極的に進めたい。
	③新学習指導要領の実施に伴い、適切な教育課程を検討する。	○新学習指導要領にあるキャリア教育の充実や、新たな指導感に基づくアクティブラーニング等の導入については、既に研修が行われている。●教育課程の研究自体は、それぞれの教科でまだこれからである。	3		<ul style="list-style-type: none"> ○官崎大学と課題研究で共同研究に取り組んでいる班がある。10月にはテクノフェアに参加し、工業技術発表会に参加した。10月下旬には、1年生が学科別の企業見学会を行い、2年生は地元企業を中心とした3日間のインターンシップを実施した。
4 保護者・地域との連携	①教育活動に係る内容や情報を保護者や地域、小中学校に提供・発信する。	○近隣の小中学校や関係施設へ配付している「佐高だより」を、拡大版にして中身も充実させた。学校紹介DVDも中学生に分かりやすいように再編した。夏期休業中の体験遊学については、他校や中体連等の行事と重ならないようにすることで、参加者数が大幅に増えた。また、本校オフィシャルキャラクターを制作し、銀嶺際や産業デザイン科の卒業制作展、地域のものづくり教室等のPRに役立てた。今後さらに活用場を広げていきたい。	4	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・テクノフェアやインターンシップに積極的で、成果発表は地域や企業等に対して大きなアピールとなった。 ・広瀬北小学校区地域づくり協議会行事への参加や、IPの活性化に生徒が協力してくれている。 ・今後とも、宮崎大学、工業技術センターとの連携を積極的に進めたい。
	②地域の関係機関や企業との連携を深め、人材の持つ知識・技術力を積極的に導入する。	○官崎大学と課題研究で共同研究に取り組んでいる班がある。10月にはテクノフェアに参加し、工業技術発表会に参加した。10月下旬には、1年生が学科別の企業見学会を行い、2年生は地元企業を中心とした3日間のインターンシップを実施した。	3		